研　究　紀　要

第 13 号

研　究　の　概　要

研究番号	研究主題
19-01	新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導と評価に関する研究
19-02	ミドルリーダー研修の研修成果を活用した校内での職能成長に係る実態調査
19-03	不登校やいじめ、暴力行為等を生まないための学校づくりに関わる校内研修パッケージの開発Ⅲ
19-04	通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導・支援に関する研究 ー多様な学びの場ガイドブック作成ー
19-05	小学校プログラミング教育に関する研究ープログラミング的思考を育成する授業づくりー

令和２年２月

岡山県総合教育センター

研究番号　１９-０１

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに関する研究

研究の背景

平成29年3月に小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領が公示され、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施となる。今回の改訂では、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することが示されている。また、知識理解の質を更に高め、確かな学力を育成することも求められている。

資質・能力の確実な育成と知識理解の質を高めるためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とそれに伴う学習評価が必要不可欠である。

そこで今年度は、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の考え方や進め方を説明し、小学校・中学校（中等教育学校を含む）の全教員が「指導と評価の一体化」の実現に取り組むことができるようにした。

研究の目的

新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の考え方や進め方について、『新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価』として、まとめた冊子を作成し、研修講座や学校支援、また、県内小学校・中学校における授業研究等で活用することによって、県内全学校の「指導と評価の一体化」に向けた、授業改善を促進し、児童生徒の資質・能力の確実な定着を図る。

研究の内容

≪新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価≫

平成29年度作成の冊子『新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり』と、平成30年度作成の冊子『新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり（実践事例編）』で示した授業づくりのポイントを踏まえ、『新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価』を刊行する。本冊子には、「指導と評価の一体化」の実現を図るための学習評価の考え方や進め方のポイントを示している。

学習評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点で示され、現行との相違点や今後重要となる考え方等を紹介している。特に学習評価は、教師の指導改善や児童生徒の学習改善につなげるためにあるという考え方やその実際の進め方を説明している。

学習評価を行う際、同校種において関連が深い他教科等のページを確認したり、異校種において同教科等のページを確認したりするなど、児童生徒の学びの全体像を踏まえて活用できるように小学校・中学校の内容を一冊にまとめている。

研究の活用、発展

○県内の小学校・中学校に冊子を配布し、校内研修や授業研究、指導要録等の作成の際に活用する。
○学習指導に関する研修講座及び授業研究等に関する学校支援の際に、平成29・30年度作成した指導資料と本資料を併せて活用し、各学校における「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の改善の促進を図る。

http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/r1/19-01.pdf

研究番号　19-02

ミドルリーダー研修の研修成果を活用した校内での職能成長に係る実態調査

研究の背景と目的

ミドルリーダーの効果的な育成の方法について

大量退職・大量採用における、教職員の経験年数の不均衡によりベテラン教員からの指導技術の伝承、若手の育成、複雑化・多様化する教育課題への対応など、岡山県が直面する教育課題の解決に向け、意図的・計画的なミドルリーダーの育成が急務である。岡山県が実施している総合的ミドルリーダー研修講座も開始から６年が経過し、修了者の職能成長の実態をまとめ、検証するとともに、時代の変化も考慮しながら研修の在り方を見つめ直すことが必要であると考えた。そこで、この総合的ミドルリーダー研修講座の研修成果から見えてきたことや他の都道府県及び企業との比較等から、ミドルリーダーの効果的な育成の方法について明らかにした。

総合的ミドルリーダー研修講座修了者に研修成果等についてアンケート調査

他の都道府県の教員の人材育成に関する研修について調査

ミドルリーダーの効果的な育成の方法を明らかにする

校長全員研修講座でミドル層に求める資質・能力等についてアンケート調査

企業の人材育成に関する研修について調査

ミドルリーダー育成の視点

①中堅教員がリーダーシップやファシリテーション力を発揮できる場を意図的に設けること
②中堅教員自身の研修に対するモチベーションを高めるために工夫すること
③中堅教員が取組の成果を短期間で振り返ることができるようにインターバルを置いた計画にすること

研究成果の活用

〇ミドルリーダー育成に係る研修講座や管理職研修等での活用
〇校内における、意図的・計画的なミドルリーダーの育成

http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/r1/19-02.pdf

研究番号　19-03

不登校やいじめ、暴力行為等を生まないための学校づくりに関わる校内研修パッケージの開発Ⅲ

研究の背景と目的

不登校や問題行動等の減少には、事案への対応だけではなく、新たな不登校を生まない、問題行動等が起こりにくい学校づくりが必要である。全ての児童生徒にとって「居場所」があり、児童生徒の関わり合いを通して「絆」づくりを行うことができ、学習意欲や自己指導能力を高めていくことができる学校づくりは不登校や問題行動等の未然防止につながる。しかし、日々の学校現場では、事案への対応に追われていたり、従来の生徒指導体制でよいという考えが根強かったりすることもあり、未然防止の取組が定着していない現状がある。さらには、生徒指導力を高めるために校内研修を実施しようとしても、研修の内容や方法の具体が分からなかったり、研修担当者に進行役としての不安があったりして、実施に至らないケースが多い。そこで、学校が生徒指導に関する校内研修に容易に取り組み、生徒指導力を高めることができるよう、具体的な研修資料や手法を盛り込んだ八つの研修パッケージ（以下「校内研修パッケージⅠ・Ⅱ」という。）を開発し、広く県内各校にWeb及びＣＤで提供した。（研究番号15-04、17-04参照。）

学校における生徒指導は、問題行動の複雑化や家庭環境の多様化等に伴い、これまで以上に多角的な指導・支援が必要とされている。また、新任教員の大量採用が進む中で、教職員一人一人の生徒指導に関する力量形成や、学校としての組織的な生徒指導力の向上が求められている。各学校において、生徒指導に関する校内研修を主体的に行うことができる環境を整えることは、喫緊の課題であり、指導方法や支援策を学ぶ研修の更なる充実が必要である。そこで本研究では、全校種の生徒指導担当者のアンケート結果等に基づき、これまでの校内研修パッケージを補完する新たな校内研修パッケージ（以下、「校内研修パッケージⅢ」という。）の開発を行い、広く県内各校に提供する。

平成26-27年度の研究（校内研修パッケージⅠ）

【課題別研修】
- 『いじめ防止パッケージ』
- 『不登校防止パッケージ』
- 『暴力行為防止パッケージ』

【基礎研修】
- 『基本から考える生徒指導の進め方パッケージ』※1
- 『組織であたる生徒指導の進め方パッケージ』※2

平成28-29年度の研究（校内研修パッケージⅡ）

【方法研修】
- 『アセスメント力向上パッケージ＜児童生徒理解＞』
- 『コミュニケーション力向上パッケージ＜児童生徒との信頼関係づくり＞』
- 『ファシリテーション力向上パッケージ＜学級（ＨＲ）集団づくりの促進＞』

※1『基本から考える生徒指導の進め方パッケージ』は『生徒指導「基礎」パッケージ』から名称変更
※2『組織であたる生徒指導の進め方パッケージ』は『生徒指導「進め方」パッケージ』から名称変更

平成30・令和元（平成31）年度の研究（校内研修パッケージⅢ）

【課題別研修】
- 『保護者との関係づくりパッケージ』

【基礎研修】
- 『授業の中での生徒指導の進め方パッケージ』

研究の方法

【平成30年度】＜研究委員会３回＞
- 各校の喫緊の課題、研修ニーズの調査
- 校内研修パッケージⅢ（試案）の開発

【令和元（平成31）年度】＜研究委員会３回＞
- 校内研修パッケージⅢ（試案）の試行（20回）
- 校内研修パッケージⅢ（試案）の修正・改善
- 校内研修パッケージⅢ完成、活用の検討

研究の成果

- 学校の課題にさらに幅広く対応するために、二つの研修パッケージを開発した。
- 学校の実態に即して研修を柔軟に実施できる短時間での校内研修パッケージを開発した。
- 研修の具体をイメージしやすいリーフレットを作成した。

【研究紀要】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/r1/19-03.pdf
【生徒指導校内研修パッケージ】
http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/seitoshido/digitaltext_2019/index.html

研究番号　19-04

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導・支援に関する研究

―多様な学びの場ガイドブック作成―

研究の背景

多様な学びの場に関わる現状の把握

○　国際的な障害観の転換
・障害の捉え方が「医学モデル」から「社会モデル」へと転換され、多様性を前提とした社会の在り方が重視されるようになってきている。

○　共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
・障害のある子どもと障害のない子どもが同じ場で共に学ぶことを可能な限り追求するとともに、個別の教育的ニーズに最も的確に応えることができるよう連続性のある「多様な学びの場」の提供が必要とされている。

○　学校支援を通じた現状把握から
・これまでの特別支援教育の実践を通して、特別な配慮を必要とする子どもの困難さを改善したり軽減したりする取組やその子の困難さに配慮した授業づくりが進んできている。一方で、次のような課題も散見された。
◇困難さの背景要因を十分に捉えきれず、学級経営や授業づくりに支障が生じている状況
◇授業そのものの質の担保や特別な配慮を必要とする子どもを含んだ集団づくりの視点が不十分

研究の目的

○共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の視点から、通常の学級及び通級指導教室等多様な学びの場の在り方を明らかにするとともに、通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習を進める上での要点を明らかにし、ガイドブックとしてまとめる。

研究の内容

（方法）
・文献研究、先行研究による特別支援教育の動向の把握
・通常の学級、通級指導教室、特別支援学級に関する訪問調査による情報収集
・研究協力委員会における情報収集
（成果）
・従来の特別支援教育が重要視してきた個に焦点を当てたアプローチに加えて、共生社会の担い手を育成する視点からの通常の学級における集団づくりの必要性

次年度に向けて

１年次の研究内容を反映したガイドブックの作成

「多様な学びの場ガイドブック～共生社会の担い手の育成を目指して～（仮題）」
・通常の学級における多様性のある学級経営や授業づくりについてのポイントや実践紹介
・共生社会の担い手を育成する視点からの「多様な学びの場」、交流及び共同学習の指導の実際
・切れ目のない支援を行うための連携の在り方　等

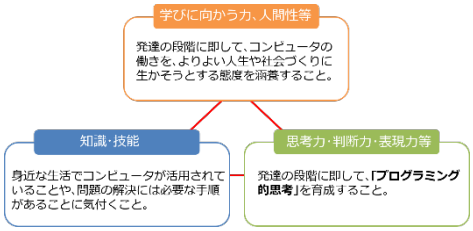
http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/r1/19-04.pdf

研究番号　19-05

小学校プログラミング教育に関する研究
―プログラミング的思考を育成する授業づくり―

① 研究の背景

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html



経済の発展や豊かな社会生活の実現のために、ロボット、人工知能（AI)、ビッグデータといった先端技術が活用される新たな社会「Society5.0（超スマート社会）」に向けて、コンピュータの仕組みを理解し、適切かつ効果的に活用する力を身に付けることは、子供たちが将来どのような職業に就くとしても、極めて重要なことです。そこで新学習指導要領では、小学校プログラミング教育必修化を含め、小･中･高等学校を通じて、プログラミング教育の充実が図られています。

小学校におけるプログラミング教育のねらいは、育成すべき資質･能力の「三つの柱」に沿って示されています。とりわけ、「プログラミング的思考」（コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力）を育成することが中核となりますが、プログラミングの技能を習得すること等と混同しがちです。また、実践事例は少なく、多くの教員が授業イメージをもつことができていない状況です。

② 研究の目的

実践事例を「岡山県小学校プログラミング教育実践事例集」及び、eラーニングによる「授業ダイジェスト動画」にまとめるとともに、「プログラミング的思考の育成における目指す児童の学びの姿」と「授業づくりの７つのポイント」を整理し、提案する。

③ 研究の取組

（1）岡山県小学校プログラミング教育実践事例集の刊行
・県内19校から先行実践29事例を収集

（2）授業実践ダイジェスト動画の公開
・実践事例集に収録した29事例をWebサイト上（eラーニング）で公開の予定

（3）プログラミング的思考の育成における目指す児童の学びの姿と、授業づくりの7つのポイントを提案

④ 研究成果の活用

・県内の小学校に実践事例集を配布し、プログラミング教育の教材研究やカリキュラム・マネジメントの一助とする。
・研修講座及び学校支援の際に、実践事例紹介等で活用。

【研究紀要】 http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/r1/19-05-01.pdf
【実践事例集】http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/r1/19-05-02.pdf
【授業実践ダイジェスト動画】https://www4.edu-ctr.pref.okayama.jp/inavi/service